

2024年 賀詞交歓会

開会挨拶

会長 上原 正弘

皆様こんにちは。年明け早々に大災害が発生しました。令和6年能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。変わり果てた風景に雪が積もってくるのを見ると、心が痛むばかりでございます。1日も早い復興、復旧がなされることを切に願っております。

本日はお忙しい中、全国よりたくさんの会員の皆様にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。厚生労働省の皆様、経済産業省の皆様、特別民間法人高圧ガス保安協会の皆様、日本医療ガス学会の皆様、ならびに医療関連団体の皆様、報道各社の皆様にもおいでいただいています。誠にありがとうございます。

さて、新しい年の幕開けです。年明けから北陸での大地震、羽田での航空機の事故、また個人的な話ですが、小倉の鳥町食道街という焼きうどん発祥の地の大火事と色々な災禍が続いておりますが、今年はどうな年になっていくのでしょうか。

2024年というと、国内では問題という言葉にくっつけて2024年問題といわれ、4月からの時間外労働上限規制によって、物流の混乱、ものが運べなくなるということが懸念されております。これは私どもの業界にとっても大問題で、我々の使命であるガスの安定供給に支障をきたすこととなります。

去年の賀詞交歓会に出られた方は覚えておられるかもしれませんが、「1をとる」という話をさせていただきました。1年経ちましたら「2をとる」、荷物の問題を取り上げる(2をとる)というような年になってきました。一方で世界に目を転じてみますと、ロシアによるウクライナの侵略戦争がまだ幕引きにならず、イスラエルでも戦火に包まれています。我が国の近くでも、台湾の問題、北朝鮮の挑発など何やらきな臭い香りが臭つとる(2をとる)状況になっております。本来は紛争の平和的な解決を担ってる(2なつとる)国連が全く機能していません。平和な日が早くやってくることを皆で願つとる(2がつとる)というのが年明けの状況ではないかと考えています。

言葉遊びが過ぎましたので、話題を当協会に戻します。このように先行きが不安定な中でも、我々は「モノづくりを支え 命を守る、インフラがある。」国民の命を守るために必要とされるガスを必要とされる時に必要とされる場所に、安全に安定に供給し続ける使命を負っております。JIMGAは会員各社様がこの使命を全うするために、事故の無い安全な高圧ガスの世界の希求、「もの申す団体」としての発言力の強化、そしてカーボンニュートラルな社会への挑戦という3つの活動方針のもと、今年も精力的に活動してまいります。

昨年の活動に関しましては協会のホームページに年頭所感という形で掲載させていただいておりますので、詳しくはそちらに譲りまして、ここではかいつまんでご紹介いたします。



まずは、昨年2月に発行した高圧ガスハンドブック（第4次改訂版）です。これまでに約1,600部を販売しており、高圧ガスの取扱いや関連法規を分かりやすくまとめています。是非とも会員の皆様だけでなくユーザーの皆様にもお勧めいただいて、高圧ガスの事故防止のためにご活用いただければと存じます。次に高圧ガス容器配送用のテールゲートリフター付き車両に関する特別教育です。年間600人程の労働災害が発生していると推測される、テールゲートリフターの操作作業員への特別教育の義務化への対応です。JIMGAでは全国約60か所で開催して、約600名に受講していただきました。そして医療ガスの安全に関しては、これまでどおりMGR制度のさらなる拡大、在宅酸素療法（HOT）患者の火災事故撲滅のための火災予防キャンペーン等はもちろんのこと、昨年は医療ガスの安全講習会テキストの全面改定を行いました。その他、国際整合化への対応や規制改革案件についても取り組んでまいりました。特に規制改革案件には種々の案件がございますけれども、本日ご臨席を賜っております関係省庁、関係団体様のご理解、ご協力をいただいでぜひ実現していきたいと思っております。鳥インフルエンザに関しても、毎年苦勞させられております。基本的には各地方行政体での対応というご判断のようですが、安全、安定した炭酸ガスの供給にはどのような方法が合理的なのかを、引き続き関係行政と議論させていただきたいと思っております。

今年の取り組みでは、今申し上げたこれまでの活動を引き続き行っていくのはもちろんのこと、いわゆる一体化の問題をさらに進めていきたいと考えています。一体化とは、機能別組織への再編と諸制度の見直しによる運営合理化、適正化に向けた活動です。ご承知のとおり、本年4月には部門制を廃止して、機能別組織へと移行することになっています。先の総会では会費関係については、少し先延ばしと申し上げましたが、このままだと種々問題があることがわかってきましたので、昨年の秋以来議論を重ねております。難しい問題だからと頼かむりして問題を先送りするのは後を継ぐ方々に甚だ無責任であるとの思いから、なんとか今年の総会で決着をつけて次代につなげていきたいと考えております。会費の問題に関しては、全ての会員の皆様が100%納得する形を作り上げるのは、すごく難しい問題だと思っております。その場合には最大公約数的なもので解決を図っていくというのが現実的なものかもしれません。

さて、再び今年の話に戻ります。西暦では2024年ですが、元号でいうと令和6年となります。先ほど最大公約数の話しをしたので6の約数を取ってみました。約数とは割り切れる数ですね。6と3と2と1で四つございます。冒頭の2をとると、6と3と1が残りしました。ここからついてきてください。3つの元素が並ぶことになりました。元素の周期表にこの数字を割り当ててみると、原子番号6番は炭素ですね。原子番号3番はリチウムです。原子番号1番は水素で、カーボンニュートラルに関連する3つの元素が並ぶことになりました。これにちなみまして、この1年



は次の世代に持続可能な世界を引き継ぐとともに、当協会の運営をも健全な分かりやすい形で引き渡していくための実りある活動を行う年にしてまいりたいと思っておりますので、よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、お集りの皆様のご健勝と会員各社様、関係団体様の繁栄を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

来賓挨拶

厚生労働省 医政局長 浅沼 一成 様

新年あけましておめでとうございます。ただいまご紹介に与りました厚生労働省医政局長の浅沼でございます。一般社団法人日本産業・医療ガス協会の新年賀詞交歓会の開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに1月1日の能登半島地震におきまして亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、被災されました全ての方々に対しましてお見舞いを申し上げます。また貴協会会員の皆様におかれましては、発災時により医療ガス供給体制の確保に迅速な対応をいただきました。心から感謝申し上げます。厚生労働省といたしましても、被災地への復旧支援に全力で取り組んでいるところでございます。

さて、貴協会におかれましては日頃より医療活動の安全管理などの取り組みを通じて、我が国の保健医療水準の向上に寄与してこられたことに対しまして、心から敬意を表します。これまでの3年余りの長きにわたる新型コロナウイルス感染症への対応におきましても、医療用酸素の需要が高まっている中、医療ガスの安定供給や医療ガス設備の保守点検業務を通じまして、医療提供体制の確保にご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。現在、新型コロナ対応で得られた知見を踏まえまして、次の感染症危機に備えた医療提供体制の構築を進めている中、医療用酸素の確保等の環境整備は大変重要な課題でございます。

また、今後慢性疾患や、医療と介護の複合ニーズを有する高齢者の増加に伴い、在宅患者も多く地域で増加が見込まれております。在宅で安心して生活できる環境整備を進めていく必要が求められております。貴協会におかれましても、これまで産業・医療ガスに関する各種講習会の開催や在宅医療機器の品質改善、向上および利用、普及、自治体等との災害時防災協定の締結の推進、在宅酸素供給装置の保守点検事業者向けの緊急災害時における手引書の作成などの策定等の取り組みを通じまして、医療ガス等の安定供給や安全管理の徹底に

努めてられました。こうした取り組みは、安全、安心な医療サービスを提供する上で不可欠なものでございます。次の感染症危機や災害時に備えた体制構築に向けて、大変重要な課題です。今後とも貴協会の着実な取り組みを通じまして、我が国の保健医療水準の向上に寄与していただきたいと考えております。

結びになりますが、貴協会のますますのご発展と本日で参集の皆様にとって本年が実り大きい1年となることを心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。今年もどうぞよろしく願いいたします。



来賓挨拶

経済産業省 製造産業局 審議官

浦田 秀行 様



本来であれば製造産業局長の伊吹が参ってご挨拶をするべきところでございますけども、公務の都合によりまして私の方から高いところから恐縮でございますけれども、ご挨拶をさせていただきます。

はじめに1月1日に発生いたしました能登半島地震において、亡くなられた全ての方々に心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

経済産業省といたしましても、人命第一の原則のもと、ガス、電気をはじめとするエネルギーインフラの復旧、経済産業省が所管する物資につきまして、現地の要請を待つことなく物資をお届けする、いわゆるプッシュ型支援の実施、コンビニエンスストアなどからの支援物資の供給の強化、それから中小企業、小規模事業者の皆様方の資金繰り支援の強化、こうしたことに緊張感を持って取り組んでまいりたいと思います。今後も総力を上げて災害対応に取り組んでまいりますので、引き続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。

国内経済全般の状況でございますが、昨年はいまだ3年間続いたコロナが収束に向かいつつ、経済社会に活気が戻り始めた1年であったと思います。私も色々な業界団体の賀詞交歓会にお招きをいただいておりますけれども、多くの業界団体で4年ぶりの賀詞交歓会の開催ということで、活気が戻り始めている日本経済を象徴しているのではないかと思います。

数字を述べさせていただきますと、本年度の民間企業設備投資額は100兆円の大台を超えていく見通しになってございます。また、昨年でございますけれども 30年ぶりの高い水準の賃上げも実現をいたしました。潮目の変化が生じているのではないかと、長らく停滞していた日本経済を反転させてデフレマインドを変える千載一遇のチャンスが来ているのではないかと考えております。

デフレをもたらしていると言われていたコストカット型経済から、投資も伸びる、賃金も伸びる、物価も伸びる成長型経済への転換を果たしていく必要があると考えております。政府といたしましては、昨年末、GXあるいは経済安全保障など戦略的に重要な分野での国内の投資を後押しさせていただくための経済対策を発表させていただきました。詳細は割愛させていただきますが、トランジションボンドを発行し、これを財源としたGXのための投資支援ですとか、OPEXの支援を含む税制改正等々、前例のない大胆な経済対策でございます。戦略分野における国内の供給力強化、日本経済の潜在成長力の引き上げを図っていきたくと考えております。

産業ガスの業界におかれましては、鉄鋼から半導体まで多様な産業にガスを供給されているほか、水素の供給、あるいは CO2回収などの事業を通じまして 日本のGXを支えていただいている協会でございます。政府の取り組みも効果を上げていく中で、この業界のビジネスチャンスが拡大してさらなる飛躍を遂げていかれることを期待しているところでございます。

先ほどのコストカット型経済から成長型経済への転換と申し上げましたけれども、これを果たしていく上でもう一つのキーは持続的な賃上げで、これを実現するための環境整備も重要な課題でございます。このため、本年度、税制改正におきまして賃上げ促進税制を強化いたしまして、より高い賃上げに向けたインセンティブを強化させていただきました。サプライチェーン全体で賃上げを実現していくということが重要でございます、このため労務費の上昇分を適切に転嫁していただくための価格交渉のための行動指針も作成をさせていただきました。

こうした様々な対策を通じまして、投資も賃金も伸びる、成長型経済への転換を図っていければと考えているところでございます。産業ガス業界の皆様方の関心が高い経済安全保障政策についても申し述べさせていただきます。

本年は米国の大統領選挙など、多くの重要な選挙も世界で予定されております。国際情勢が厳しさを増す中、貿易投資の自由をできるだけ確保しながら経済安全保障の観点から、国力を充実させていくことも大変重要だと考えており、実際にこの基盤を支えていただいている産業界の取り組みの強化も欠かせないわけでございます。

皆様におかれましては、ヘリウムあるいは希ガス等のガスにつきまして、生産増強、備蓄、リサイクルなどの取り組みをすでに進めていただいております、大変感謝申し上げます。強靱なサプライチェーン構築に向けた産業界の取り組みを、今後も法律に基づき予算も活用しながら、政府としてしっかり後押しをさせていただければと考えております。同時に産業界の皆様の中には、日本や世界が経済安全保障の方向に舵を切っていくという中で、こうしたことが企業活動やイノベーションの制約になってしまうのではないかと懸念する向きもあるのではと思います。適切なリスク管理をしていくということは非常に重要なことでございますけれども、適切なリスク管理を超えて過度な自粛が進むことがないように、産業界との対話も重視しながら経済安全保障政策を進めてまいりたいと考えているところでございます。

この場をお借りしまして一点お願いを申し上げます。来年いよいよ2025年日本国際博覧会が開催されます。開催まで1年を切っております。昨年末にはチケットの前売り販売も開始させていただきました。様々なネガティブな報道もあるところではございますけれども、科学の力で日本、それから世界の未来を切り開いていく、そうした世界を次世代に引き継いでいく重要な意義があるイベントだと考えております。経済界の皆様方と連携をして、政府として成功に向けて全力を傾けてまいりますので、引き続きご協力をお願いできればと思います。是非チケットも販売開始されておりますので、来年会場に足をお運びいただけるようお願いを申し上げます。

最後になりますけれども 本年は十干十二支の甲辰にあたる年ということでございまして、これまでの努力が実って夢が叶いやすい年と言われております。前回の甲辰は1964年でございます、東京オリンピックの開催でありますとか東海道新幹線の開通など、国をあげた大事業が成し遂げられた年でございます。今年も大きな時代の転換点を迎えている中、官民で力を合わせて日本経済を成長軌道に乗せていきたいと考えております。会場には経済産業省の素材産業課の担当も来場しておりますけれども、経済産業省として業界の皆様方のご努力をしっかりサポートさせていただくことをお約束させていただきます、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

来賓挨拶

特別民間法人高圧ガス保安協会 会長 近藤 賢二 様



皆様、明けましておめでとうございます。

新年早々から東日本の大震災以来の大きな地震がございました。能登半島の大地震がございました。また羽田空港での事故もございました。羽田空港の事故も、輪島に向かうための海上保安庁の方々が飛び立とうとしていたところであり、犠牲になられた方々には（その行動に）心から感謝をするしかないと本当に思っているところであります。

今、色々なご挨拶がございましたように、今年は確かに甲辰という年でございます。辰の年は龍のごとく猛々しく登っていく、新しいことに挑戦をして成果が上がっていく年だと言われているのでございますので、ぜひ色々なことに皆様も挑戦していただきたいと思っております。

先ほど上原会長から非常に格調の高い、周期表で1番と3番と6番という話がありました。確かにそうだなと感心をして聞いておりました。ちなみに上原さんは私の協会の理事もしていただいております、やはり格調の高い方がJIMGAの代表なのだと思っておりますのでございます。

先ほど上原会長から非常に格調の高い、周期表で1番と3番と6番という話がありました。確かにそうだなと感心をして聞いておりました。ちなみに上原さんは私の協会の理事もしていただいております、やはり格調の高い方がJIMGAの代表なのだと思っておりますのでございます。

あえてそう申し上げたのは、今年、水素の法案を国会にて提出する方向で、経済産業省が検討しています。また炭素の関係では、CCSというCO2を捕まえて地中に入れていく法律にも取りかかろうとしておまして、今の状況ではおそらく2月の初めあたりに閣議決定し、国会提出をされて、かなり早いスピードで成立をする。成立した後は半年後の施行を目指すということでございます。来年のJIMGAの賀詞交歓会の時には、水素とCCSの法律ができ、こんな風に動き始めました、という報告ができるのかなと思っております。やはりさすがに甲辰の年には色々なことが動くなと思っているところであります。

それにつきましても今回の震災でも分かりましたように、やはり安全を前提に我々が色々なことやっていかないと日本中の方が困るわけでありまして。決して一つ一つが大きな目立つ仕事ではないかもしれませんが、一つのボンベを病院に届ける、一つの工場に届ける、これが本当に日本を支えているのだということに、改めて皆様とともに感謝をしながら前進をしたいと思っております。

今年もぜひJIMGAと私どもも力を合わせ、一緒にしっかりとスクラムを組んで、歩調を合わせて前進をしまいたしますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、本日で列席の皆様のご健勝とご発展、商業の発展を心からお祈りを申し上げます。また今年はまだこれ以上の災害が起きないように、皆様とともに良い年になるようお祈りしたいと思っております。皆様、今年もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



乾杯挨拶

副会長 鈴木 慶彦

能登半島での地震発生ということで、乾杯をしても良いのかという意見があったのですが、今回はやるということになりましたので、乾杯させていただきたいと思います。

実はお正月に、落語だとか漫才、講談だとか浪曲などを色々で片っ端から聴きまして、その時にある落語家がこう言っていました。こういう時ですけれども、確かに災害に遭われた方、亡くなられた方がおられるということは本当に痛ましいことなんですけれども、明日は我が身。誰のところにもいつ来るかわからないというものなので、それに対して我々のような幸せに生きている人間が過度に常にくよくよしてるということは、社会のためには良くないのではないかと。落語家ですから笑ってもらわねば困るということで、笑ってくださいというお話でした。

我々もそうだなと思っております。我々は亡くなられた方に対して心の底からお悔やみ申し上げるとともに、生き残った方、それから避難されてる方、この方達が今生きていて良かったなという風に思えるような社会に我々の手でしていかなければいけないんだと思います。そのために我々としては、自分たちのやれること、やっている活動を100%やり、結果的に被害に遭われて今避難されてる方達が1日も早く幸せだなと感じられるようになることが何よりではないかと考えています。

その一環として乾杯をしたいと思いますので、ご唱和をお願いいたします。それでは被災され、今避難生活をされてる方、それに関わる皆様の1日も早い幸せを祈念いたしまして乾杯したいと思います。乾杯。

